尾張版

あさがお
名倉洋
東美会

劇のクライマックスで合唱する出演者たち＝いずれも弥富市総合社会教育センターで

弥富の悲劇 歌い継ぐ

地元題材ミュージカル上演

六十年前に東海地方を襲った伊勢湾台風を題材にしたミュージカル「空が落ちてきた日。」の上演会が二十二日、弥富市総合社会教育センターであった。会場では、当時の市内の様子を収めた写真の展示もあり、観覧した市民ら約六百人が防災意識を高めた。（大野雄一郎）

伊勢湾台風 60年

伊勢湾台風は一九五九（昭和三十四）年九月二十六日に紀伊半島に上陸、旧弥富町と十四山村でも計三百五十八人の死者、行方不明者が出た。ミュージカルは、災害の歴史をあらためて知ってもらおうと、同市出身の劇作家やとみまたはちさん（五三）が脚本を制作。県内の有志らでつくる実行委の主催で、名古屋市内など計六カ所での連続上演を行っている。

弥富公演では、弥富北中学校ダンス部の二十二人が、水を表現するダンサーとして舞台に登場。市南部の鍋田地区に入植した干拓民や、隣町の学校に勤務していた教員の体験なども劇中に描かれ、観覧者は真剣な表情で物語に見入った。祖父から台風被害の話を聞いたことがあるという愛西市善太新田町の大学三年生平野新太郎さん（二〇）は、「物語にリアリティーがあり、災害や死の恐怖が伝わってきた」と話していた。

北中ダンス部 水を表現

演じる側にも、弥富での上演には特別な思いがあった。ダンス部の天木星来部長（一五）は「災害の経験を受け継ぎ、表現したいという思いを込めて舞台に立つことができた」と振り返り、やとみさんは「被災してもたくましく生きた人たちのおかげでこの土地があるということを実感してもらえたのでは」と充実感をにじませた。

会場外では、警察や消防など十三の団体が参加する「防災展」が催され、災害時に出動する緊急車両や防災グッズの展示があった。ロビーでは市歴史民俗資料館が主催する写真展もあり、被災後の市内の様子を収めた約五十点が並んだ。写真展は二十九日まで開かれている。

ロビーでは被災当時を収めた写真も展示された

令和元年９月２５日（水）中日新聞　朝刊　尾張版に掲載